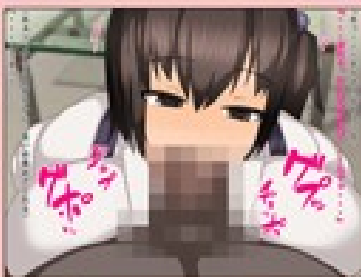


基本CG11枚



「私をもっと頼ってください」

家事をこなすように
性欲処理もしてくれる家政婦さん



忙しくて家の掃除が全くできない・・・
まだ当分時間なんてとれない
というわけで、家政婦さんを雇う事にした



家政婦紹介所を調べて電話をかけて
受付担当者と軽い受け答えをして
『住み込み可能ですか?』

と聞かれたので空き部屋があって早い方が良いと伝えたら
すぐに来てくれる事になった

「家政婦幹旋所から参りました。本日からお世話になります」

「ど、どうも」

（すごく古風な人が来たな・・・）

「住み込みでと聞いていたのですが」

「ああ、そこの部屋を好きに使ってください」



「じゃあ俺仕事行かなきゃなので掃除お願いします」

「わかりました、いつてらっしゃいませ」

こうして家政婦さんとの生活がはじまった

その夜

仕事から帰ってくると家は綺麗になっていた
見た目通り真面目な人みたいだ

「あれ？居ない？買い物にでもいったのかな」

今のうちにオナニーしとくか

おっ？

この本何か今日来た人に似てるな
今日はコレを使おうと

「・・・もうちよいでイキそう」

ガチャッ

「あの、お食事ができました」

「あっ……」



（ああああああああああああああああ！）

「すいません間が悪かったようですネ」

(めちやくちはずかしい……)



「もうちょいしたら行くんで先に食べてて下さい……うう……」

『……』

「ではそのまま横になってください」
「・・・へ？」



「お手伝いします」
「！？」

『では失礼します』

(うわぁ・・・これはすぐ出そう・・・
それにその、顔の近くに乳が・・・)

ッ

グニッ
クニユ

『どうしました?』

「おっぱい吸いたいなく・・・なんて、ははは」

『は?』

「あつすいません」



「母乳など出ませんけど・・・」

「えっ、ああはい、それでもいいです」

?

「????・・・まあそれでしたら、どうぞ」

「わーい」



(痙攣してきたし大きくなってきたけど大丈夫かしら)



(先ほどより硬くなった?...))



「はあ・・・気持ちよかったです・・・」

「お疲れ様でした」

「良かったんですけど・・・
これも普段からやってるんですか？」



「ご高齢の方などには入浴やトイレなどのお手伝いはします
性欲処理のお手伝いは初めてですが、私でよければ」

（そういう感覚なのか・・・ってこれからもしてくれるの!？）

その日からオナニーの時は家政婦さんと呼ぶ事にした

口でして欲しいとお願いしたら
昨日みたいに嫌な顔せずあっさり引き受けてくれた

(はあたまらん)

んむう・・・ちゅっ・・・

へろ
へろ
へろ

へろ
へろ
へろ

「あっ・・・そろそろ出そうっす」

『・・・おはっ、いつでもどうぞ・・・んぐっ・・・』

ッ

ッ

ゲッ
チュッポ

ゲッ
チュッポ

（ああソコすげえ気持ちいい、良い所責めてくれる）

「・・・でるっ！」



「うわーすげえ出る・・・そのまま飲んで・・・」



無茶な注文だと思ったけど全部飲んでくれた
その後ちんぽについた精液も舐めて綺麗にしてもらった
本当に何でもやってくれるな

次の日はパイズリをお願いした

「**それでは上失礼します、分からないので教えて下さい**」
(うおおおお！服でわからなかつたけどすげえ乳でけえ！)

「**あの。。。あまり見られると恥ずかしいので。。。**」

「あっはい (目が勝手に行くから仕方ない)」



「どうですか？」

「うんうん、上手いよ」

（パイズリなんて初めてしてもらった・・・こんな良いモノとは）

（胸の中でおつきくなってますね、あとヌメヌメしてきました）



「むっ……。はみ出しましたがどうしましょうか」
「先っちょ舐めながら胸でしごくのも続けて」
「わかりました」

（こうですかね）





「射精終わるまで両方続けて・・・くあ、最高・・・」

もうオナニーじゃ満足できなくなつたな
夜中とかムラムラきたらどうしよう



その夜、ムラムラして眠れなかったので
家政婦さんのお部屋におじゃました

しかし、家政婦さんはもうぐっすりと眠っていた

（どうしよう困ったな。。。）

まあ挿入しないで抜くくらいなら良いだろ

勝手に家政婦さんの身体使っても怒らないよね、たぶん）



（抱いてみると意外と小柄だな、寝顔は幼く見えるし
なのに身体はこんなドエロいとか・・・）

（股間に悪すぎだる。。。もう我慢できん、突っ込む！）





7%

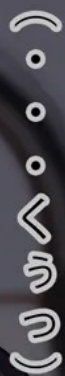
hooo

（ああギチギチ絡みついでくる、こんなすぐ出ちまうよ）

（家政婦さんの身体も温かくなってるし感じてるのかな？）

（さすがに外に出さないと）





（やべっ、寝込み襲った上に勢いで中に出しちゃった）

120



（。。。）
（しっかりと最後まで中に出しちゃったけど）
「だ。。。だいじょうぶですか？」

「んう」

（何言ってんだ俺はやべえよどうしよう）



（とりあえず、もう一発やっただと考える）





「ふう、結局五回も出しちゃった」

「あの、よろしいでしょうか」

「……」



「あれ！？起きてたんですか！」

「はい」

「いつごろから・・・」
「大丈夫かどうか聞かれたあたりで目を覚ましました」
（一回目終わってすぐじゃん！）

「あの・・・これはその・・・」
「こういう事されては困ります」
（めっちゃ怒ってる・・・）



「家主に気を遣わせてしまったては家政婦として恥ずかしいです
寝ていようが起こして好き放題していいんですよ」

「すいませ・・・えっ？あつ、はい」
（今も十分好き放題してる気が・・・）

「遠慮せず私をもっと頼ってください」

「あ、あの、じゃあ明日からは好き放題します、はい」

「よろしく願います」

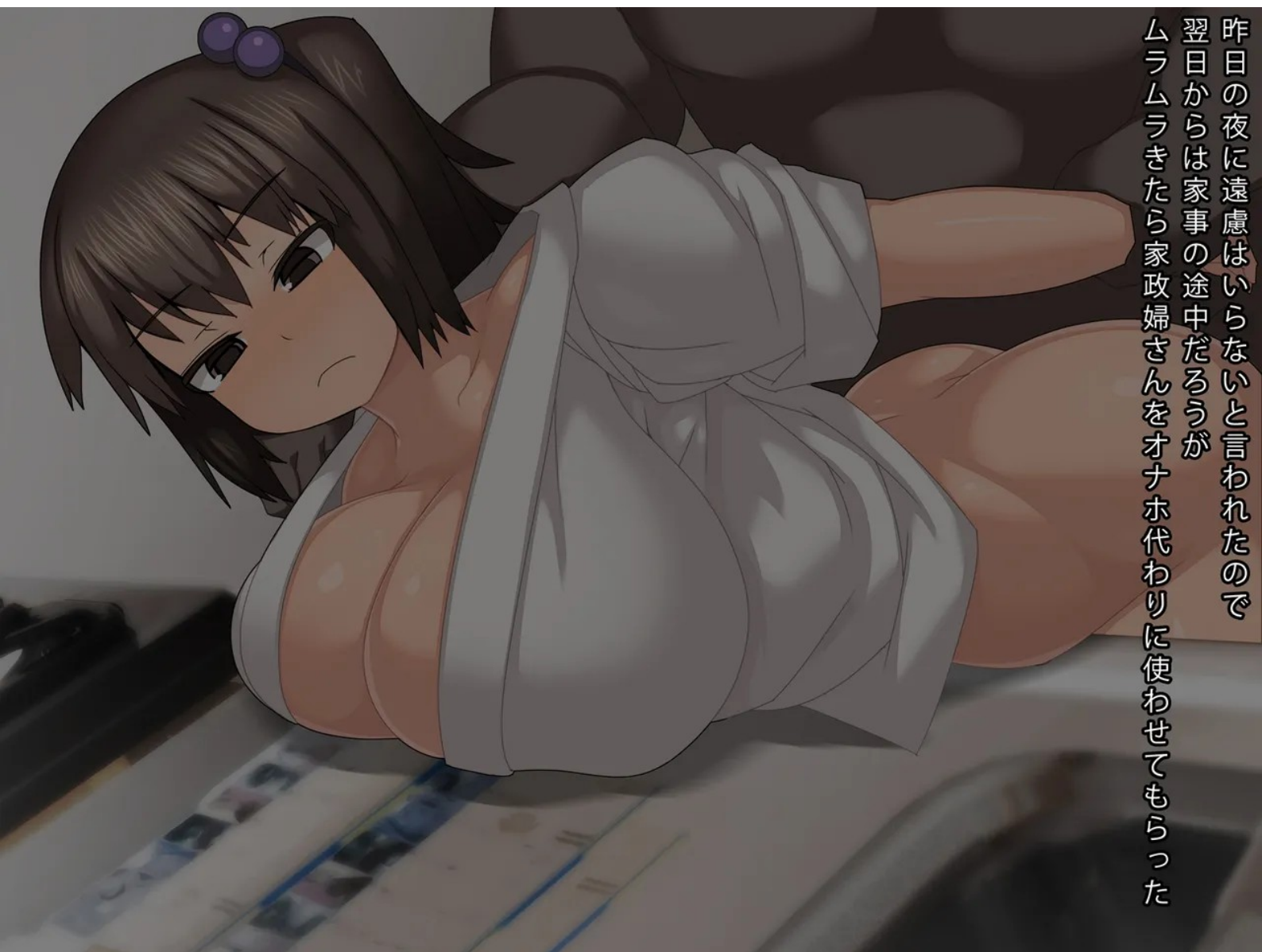


とりあえず怒られなかったのはいいんだけど
家政婦さんの感覚がよく分からなくなってきたぞ

。。。まあでも本人もああ言ってるし（我慢できそうもないし）
怒られるまで好き放題やるか！



昨日の夜に遠慮はいらないと言われたので
翌日からは家事の途中だろうが
ムラムラきたら家政婦さんをオナホ代わりに使わせてもらった









「はあすつきりした……。でももうちょっと出る……」
「お疲れさまでした、出し切るまでこのままで大丈夫です
それと夕飯ですが右のページのものです良いですか？」
「うん」



「分かりました。今から作りますので
出し終わったら先にお風呂に入って来て下さい」
「はい」

数目が過ぎた

このあたりから暇さえあれば

家政婦さんを抱いていたし

当たり前になりすぎて甘えまくっていた



「はあ……はあ……もう出る、中に出してらら？」

（どうせ良いって言うだろうけど）



「すいません、今日は危険日なので
妊娠してしまうかもしれないので外でお願いします」
(ええええええええええええ！)

「。。。あの、聞こえてますか？」

(もう中に出す事しか考えられない
よし、怒られるかもしれないけど

夢中で聞こえてなかったふりして中出ししよっと)





「ふーむ・・・こんなに出不来ますとまずいですね
一応お風呂でかきだしてきます、しばし失礼します」
「う、うん・・・うん？そっか・・・」

あー・・・

モミ

モミ

グ

グ

グ

グ

グ

（あれ？いつもどおり冷静なんだけど？）

（何とも思っていないのか、それはそれでモヤモヤする・・・よし）



「あつ、ちよっと待って」

「なんでしよう」

「今晚俺が寝るまで添い寝してもらっていいですか？」
「添い寝ですか、わかりました」

危険目って言うって誘いに乗るのか、それとも分かってないのか
どちらにしても今夜はたっぷり甘えさせてもらおう



「添い寝って話だったのにすいません」

「いいえ、問題ありません」

しかし先ほども言いましたが今日は危険日なので……」
「わかってますわかってます、はあ柔らかい」

モッ

モッ

（ちゃんと聞いているのかしら）





(あれ、いつもと違ってずいぶん静かね？
それに愛撫ばかりしてあまり動かない・・・？)

だいぶ時間が経った
決して激しくは動かず勃起を維持する程度にたまに動く
抱きしめて身体を密着させながら
胸や首筋を愛撫している

（一向にはじまらないわね……）

「?・・・ええと・・・下腹部がすごく熱くて・・・奥がうずいてますね」

(本来なら私がお相手しなくてははいけないのに・・・しかも
はしたない事に身体が悦んでしまっている
こんな日にこんな状態で
万が一にでも子宮に精液が入ってしまったら
確実に妊娠してしまうわね)

(でもさつき危険日と伝えたし何も心配は)

「じゃあまず一回」

「・・・えっ」





いつものような快感だけを求めた行為ではなく
長い時間をかけ少量ずつ
ゆっくりと精子を子宮の奥に流し込む
メスを孕ませる事を目的とした
ねっとりとした射精

そんな思惑がある事を
彼女は知らない

「中は駄目と事前に・・・」

「ごめんごめん出ちゃったよ、次はちゃんと外に出すから」

「その前に中に出しちゃったのをかき出してあげるよ」

「あ、あの、人様に……ましてや家主のあなたに
そのような事させるわけには……」

「いいからいいから俺の希望なんだし、ほら足開いて」
「それなら……はい……」



(ああ・・・あんなにたくさん・・・)
(かき出された精液が絡まって・・・すごい音してる・・・)

(・・・ちよつと・・・)
「あの・・・もう十分外に・・・ふぁ・・・やめっ・・・
・・・くうっ!」
(何とも言えない気持ちになってきた)





「抱いてる時に何度か反応してたから
ここが好きなのかな？　っと思ってたんだけど
当たってて良かった」

(なんの話を・・・？)

「一気に奥まで貫くよ」
「うっっっ」



「絶対中に出すからね!」

「んっ・・・だめですよ・・・今出されたら本当に・・・妊娠してしまいます・・・」

「最初からそのつもりだったんだ今更やめない! 俺は家政婦さんが好きだ! 妊娠してくれ!」

「!」



「こんな状況でそんな・・・私なんかを好きだなんて嘘」

「こんな事までして嘘なわけないだろ！」

「でも……」

でも・・・
グ
グ
ッ
フュ
ラ

あー!

あ、

7/7

742

「このまま射精して家政婦さんを妊娠させる！俺の女にする！」

「・・・そ、そんな」

「もう出る、中に出すからな！」



「はあ。。。ぐう。。。まだ出るぞ。。。全部中に。。。俺の精子で絶対に孕ませる絶対俺のものにするんだ！」



(ああ。。。あんなに一生懸命しがみついで。。。)
(私の意見なんて一切聞かないで強引にされてしまったのに。。。)
(悪い気はしません。。。不思議です)

「はあ。。。はあ。。。疲れた。。。でも
もっと家政婦さんになりたいんだ、いいよね？」



ゴ
ポ
ロ♡

イ
キ

〜

は
ー♡

ー

は
ー♡

ド
クッ

〜

「。。。あら」

ゴ
ガ
ラ
ゴ
ガ
ラ





「はあ……はあ……すごく良かったよ」

「ありがとうございます、お疲れ様です」

「それはそうと、そろそろできたかな？」
「何がでしょうか？」

「何って、子供だけど」



「数目前に報告したはずですが・・・妊娠してましたよ
この通り胸も張って母乳も溢れてますし」

「えっ、そ、そっか、すみません」

「いえ謝る事ではないです、気にしないで下さい」

「それより続けましょう」

「え、いいの？怒ってない？」

「怒っていませんし問題もありません、というより」



「……私はもっとなりたいです
もっとなあなたと繋がっていたい」

「こういう気持ちを言葉にしたり表に出すのが
昔からヘタなのですが……あのですね……」

今後ともどうぞよろしくお願いします」

おしま













































































































